

工事を受注された皆様へ

工事故の根絶に向けて！

県発注工事で事故が増加しています。特に、**墜落・転落**、**地下埋設物関係等の事故**が多く発生しています。

安全訓練、新規入場者教育を実施する際には、このチラシを用いて、**全ての作業員に周知**し、事故防止に努めてください。

令和3年度 事故発生事例

		事故概要	発生原因
1	墜落・転落	4 tトラックに積載していた大型土のうを移動式クレーンで荷下ろししていたところ、吊り上げた土のうが振れ、荷台上で玉掛け作業をしていた作業員に接触し、作業員が転落した。	<ul style="list-style-type: none">・合図、確認ができていなかった。・トラック荷台について、容易に昇降できるようになっていなかった。・周囲の状況が把握できていなかった。・玉掛け者が有資格者ではなかった。
2	飛来・落下	ブロック積基礎に係る掘削作業中、湧水用の水替えポンプを設置していたところ、切土法面にあった既設コンクリート塊（縦横1m、厚さ20cm程度）が滑り落ち、作業員の左足に当たった。	<ul style="list-style-type: none">・法面に背を向けて作業していた。・土留工等の対策を実施していなかった。・掘削開始時に既設コンクリート塊の滑落の恐れを確認したものの、確認が十分ではなかった。・作業内容に応じ人員を配置していたが、危険箇所等を確認する誘導員はならず、危険箇所の指摘が適切に行われなかった。
3	地下埋設物	地中配線をハンドホールへ引き込むための掘削作業中に、バックホウが既設埋設管と接触し破損した。	<ul style="list-style-type: none">・配線ルートの変更について、発注者及びインフラ管理者と協議していなかった。・埋設標識シートを確認していたが、機械掘削を続行した。・雨天の合間での工事のため、焦りがあった。
4	自動車の接触	仮舗装作業中に2 tトラック（運転手は降車）が無人で動き出し、信号柱と接触した。これにより信号柱と制御ボックスが損傷し、信号機が不点灯となった。	<ul style="list-style-type: none">・運転手の不注意（サイドブレーキの引きの甘さ）。・運転手が勾配のある箇所にトラックを停車し、降車してしまった。・輪止めを準備していたが、別の作業に従事し、設置を怠った。・舗装作業に注意を向け、現場全体への注意がおろそかになっていた。
5	第3者の負傷	仮設迂回路において、側溝を養生するため設置した敷鉄板と道路面の段差部にバイクのハンドルが取られ、バイクが転倒し運転者が軽傷（擦り傷）を負った。	<ul style="list-style-type: none">・段差部は擦り付け舗装を実施していたが、損傷により一部の擦り付け舗装が無くなり、段差が生じていた。・事故当時は雨上がりであり、敷鉄板が滑りやすくなっていた。・仮設迂回路の安全巡視を怠っていた。

工事故防止のために

- ・ 高さが2m以上の箇所で作業を行う場合は、「**墜落防止チェックシート**」による**日常点検を実施**してください。
- ・ 輸送経路、残土処理場等も含めた工事箇所全体の支障物件について、「**支障物件確認書**」により**管理者の確認**を受け、**監督員に報告**してください。
- ・ 地下埋設物が予想される場所では、**原則試掘**を行い、**当該埋設物の位置、構造等を確認**してください。
- ・ 休日・夜間に作業を行う時は、**事前に「休日・夜間作業届」を監督員に提出**するとともに、**発注者の緊急連絡先を監督員に確認**してください。

除草業務を受注された皆様へ

除草現場において、草刈機が小石を跳ねとばし、一般車両に損害を与える事故が毎年発生しております。

除草作業を実施する際には、このチラシを用いて**すべての作業員に周知**し、事故防止に努めてください。

事故の主な発生原因

- ・ 防護材による飛散防止対策が講じられていなかった。
- ・ 防護材を使用していたが、**防護材の幅が狭かったり、防護材と草刈機の距離が離れたり**し、飛散防止が十分できていなかった。
- ・ 防護材を使用しているという**安心感から油断が生じた**。
- ・ 事故の危険性を予知できたにもかかわらず、**これまで事故が発生しなかったため、油断が生じた**。
- ・ 作業手順の確認が徹底できていなかった。

事故防止のための対策

●作業前

- ・ 作業員に対し、**飛散防止対策を徹底**させる。
- ・ 石、空き缶等**はできる限り事前に撤去**する。
- ・ 除草範囲の近辺に**車輛があれば、依頼して事前に移動**してもらう。
- ・ **障害物の位置を確認**し、目印を設置する等の対策を実施する。
- ・ 作業員、監視員及び交通誘導員の間で**作業手順、役割等を確認**する。
- ・ 草刈機の操作方法を確認する。

●作業中

- ・ ヘルメット、防護メガネ、手袋、安全ベスト等を着用する。
- ・ 飛散防止が必要な箇所では、現場状況に合わせ、**以下のいずれかの飛散防止対策を実施**する。

特記仕様書
記載事項

- ①飛散の少ないバリカン式又は低速回転二枚刃式の草刈機を使用
- ②飛散防止用ネット等の防護材を使用（推奨寸法：幅2.7m、高さ1.8m程度）
 - ・ 草刈機の刃先と防護材との間隔を詰め、防護材を草刈機に追従させる。
 - ・ 歩道の縁石際など、草刈機の刃先と防護材との間隔が詰められない箇所は、飛散を防止するのに十分な高さや幅を有する防護材を使用する。

- ・ 障害物に損傷を与えないよう、間際は慎重に作業する（手刈り等）。
- ・ 注意力が散漫とならないよう、特に夏場は適切に休憩を取り、水分補給を行う。
また、作業は長時間行わない。